

施設並びにNPO等と連携して、もったいない農産物のような規格外農産物や竹チップのような有機肥料、BDFのような新資源の運送活動などを実施したいと考えています。

現在、もったいない運送普及のために、6月にインドへ行く計画をしていますが、インドに行くことで、さらに世界観が広がると期待しています。当然ですが、言語から文化、生活習慣に至るまで日本とは全く違います。その中で、もったいない運送を広めていけることは僕にとってはこの上ない喜びです。日本で出会ったコミュニティビジネスをされている方々は自分に厳しく、その上で人のことを評価できる方々で、お互いに切磋琢磨していました。恐らくこの姿勢があるからこそ、あのスピード感が維持できるのではないかと思います。僕は日本で、もったいない運送を現場で実践してきたドライバーとしてこの活動の素晴らしさをインドの方々に伝えたいと思っています。なぜなら、それが日本で出会った方々のお互いに切磋琢磨しあっていた関係と同じような関係をインドで出会う方々と築くためのきっかけになると思うからです。さらには、もったいない運送の活動をインドで広めるための良い滑り出しにも繋がるかと確信しています。



もったいない運送についての記者会見の様子

インドでは、実際にもったいない運送を実践していくためのトラックを購入する予定ですが、インドの方々との関係をお互いに切磋琢磨し合える関係にするために、インドの方々と協力し、僕がリーダーシップを取って購入することになります。また、もったいない運送に限らず、運送業をどのように展開できるか、住む場所はインドのパートナーであるM

BA取得学校であるダーウィンスクールオブビジネスの理事長 Dr. Anirban Chaudhuri が借りているゲストハウスで大丈夫か、会社設立の許認可はどこで取得するのか、法人形態や資本金をどのようにして会社を設立したらいいか、事務所は Dr. Anirban Chaudhuri が借りている寮に間借りできるか、次に来る際の就労ビザを Dr. Anirban Chaudhuri に手続きしてもらうための打ち合わせをどうするか、ネットカフェを開けるか?…などを鹿毛の思いを代弁することも含めて、一人の経営者になったつもりで、責任もって成功するために調査をしてきます。

このインド訪問がうまく行けば、僕は本宮にもったいない運送をインドで広めていくことになります。ただし、もったいない運送は、コミュニティビジネスとしての社会貢献システムですので、日本で実践してきたように、平日は一人の運送業者として仕事をし、休みの上日にもったいない運送を実施していくことが一番良いやり方だと考えます。

日本で、もったいない運送が広まることにより僕が感じる事ができた感動が、インドでも感動の輪となってアジアのいろんな地域に広まるように、努力と実践を続けます。



左の写真は福岡県にある株式会社西部クリーンさんより、熊本県のBDFを製造している業者から山口県の21世紀の森まで運送するように頼まれ、もったいない運送で運送したときの様子です。2t車平ボディにドラム缶を3缶ほど積みました。

BDFは家庭や飲食店などから排出される廃油を燃料にしたもので、軽油の代替燃料です。軽油にくらべ環境に負荷がかからないので注目されています。もったいない運送では、このような社会的に価値の高い事業を行っている企業やNPOと共に活動しています。